朝日新聞
DIGITAL

早生まれ、中学になっても「勉強面で不利」説　挽回は？

有料記事

松原央　2020年3月6日 8時00分

早生まれの子は勉強やスポーツで苦労する――そんな話を聞くことがあります。入学シーズンを前に、親としては気になるところ。専門家の意見を聞きました。

「早生まれ」とは、1月～4月1日生まれの子。筆者の長女（6）はその4月1日生まれで、あと7時間遅く生まれればひとつ下の学年だった。学年で最も「幼い」ことが、学力や運動面でハンデにならないのだろうか。

まず心配なのは運動面。体は父親に似て大きい娘だが、保育園の頃は体操教室で同級生についていけず、よく泣いていた。小学校に入ってもドッジボールなどの球技や縄跳び、跳び箱は苦手なままだ。

「生まれ月による運動面のハンデが大きいことは、プロ野球選手の数からも明らかです」と話すのは、東京農業大の勝亦（かつまた）陽一准教授（発育発達学）。勝亦さんが約2200人の選手を調べたところ、4～6月生まれが34%、7～9月が30%、10～12月が20%だったのに対し、1～3月生まれは16%だった。野球人口は小中高と年齢が上がるにつれて早生まれの比率が大きく減っていくという。

これは「チームスポーツでは勝つために体力的に優位な子が起用され、生まれ月の遅い子がやる気を失って競技を離れてしまうことが考えられる」からだと勝亦さん。「プロで活躍する可能性のある人が生まれ月のために機会を奪われている」と指摘します。

東京農業大の勝亦陽一准教授=東京都世田谷区

やはり運動面の不利はあるのか……。ショックを受けていると、勝亦さんが意外なデータを教えてくれた。

実は、狭き門を勝ち抜いてプロになった早生まれの選手は、首位打者などの個人タイトルを取る確率が学年の前半に生まれた選手よりも2倍近く高い。これは、体の成長が同級生に追いつく高校生以降の「伸びしろ」が大きいためだと考えられるそうです。

また、スケートのショートトラックやスノーボードなど、早生まれの選手が比較的多く活躍している競技があることもわかったといいます。「あまり競技にこだわらず、子どもが上達する過程を気長に見守ってほしい」。勝亦さんはそうアドバイスしています。

スポーツに希望が見えたところで、勉強面はどうだろうか。

兵庫県尼崎市では、市内の小中学生を対象に2005～15年の間、「学力・生活実態調査」を実施。算数・数学や「リーダーシップ」の項目で、早生まれと4～6月生まれには、中学生になっても差が認められたといいます。

そのため市は昨年5月から、市内の小学校2校の1年生（計6クラス）で、早生まれの子どもを教室の前列に座らせて、先生の関わりを強める試みを始めました。学力や学習意欲への影響を調べる狙いで、こども政策課の清水徹課長は「早生まれであることが将来的に不利にならないように、学校でどのような支援ができるか検討していきたい」と話します。

生まれ月が学力に与える影響を調べている慶応大の中室牧子教授（教育経済学）は、「学年が上がると学力差は縮小するが、中学生になっても依然として残る」と指摘。原因として、発育の差だけではなく、子どもの「自尊心への影響」が考えられるとしています。

慶応大の中室牧子教授=東京都千代田区

中室さんによると、4月生まれなどの子は一般に成熟度が高いため、クラスでリーダーシップをとる機会が増え、勉強や運動に積極的に取り組む好循環が生まれやすい。一方で、早生まれの子は小学校低学年でできた序列の影響で、自尊心を育む上で苦労するケースもあると指摘します。「小学校受験や中学受験に見られる受験年齢の低下は、生まれ月による不公平を拡大する可能性があります」と中室さん。9月に新学期が始まる英国では、4〜8月の「夏生まれ」の子を対象に、発育に合わせて小学校入学を1年間遅らせる制度があり、日本でも尼崎市のような取り組みがもっと必要だと訴えています。

生まれ月を意識した教育現場の取り組みは、1年生を誕生日順にクラス分けしている玉川学園小学部（東京都町田市）などの先行例も。文部科学省も月齢別の集団編成が学力に与える影響を調べる研究を公募しているそうです。

早生まれの子をフォローする取り組みも少しずつ進んでいるようで安心しましたが、親としても何かできることはあるのでしょうか。

幼児教室「サピックスキッズ」の石垣知子教務課長は「生まれ月よりも、保護者の関わり方など、家庭環境の方が学力に影響するのでは」と指摘。「小学校で学力が伸びる子は健全な自己肯定感を持ち、失敗を恐れない傾向がある。早生まれを意識させ過ぎるのは逆効果で、同級生に引っ張られて成長が早まる面もあります」と話します。

大切なのは、発育の差が子どもの劣等感につながらないように、学力以外でも小さな「成功体験」を積み重ねることだそう。確かに、今でも「あと7時間遅く生まれてくれば」と思ってしまうことがある筆者。安易に周りの子と比べずに、娘自身の成長をゆっくり見守っていく気持ちも大切にしたいと感じました。（松原央）

子育て世代のページ「エムスタ」はこちら →

サピックスキッズの石垣知子教務課長=東京都渋谷区

朝日新聞デジタルに掲載の記事・写真の無断転載を禁じます。すべての内容は日本の著作権法並びに国際条約により保護されています。
Copyright © The Asahi Shimbun Company. All rights reserved. No reproduction or republication without written permission.